

EU 投資フォーラム: Why Should I Invest in the European Union?

2026 年 3 月 10 日 (火) 16:30~20:00 東京 (8:30~12:30 ブリュッセル)

田中 和彦氏 (三菱マテリアル株式会社 経営戦略室 室長) による、EU における日本企業の投資・事業展開に関するケーススタディ紹介:

本日は、当社の欧州における資源循環事業の取り組みについてご紹介します。当社は、「人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する」を私たちの目指す姿として掲げています。昨年 11 月に公表した中期経営戦略でも、「資源循環ビジネスで未来を創る企業へ」を基本方針に据え、限りある資源を最大限活用し、廃棄物を新たな価値に転換することで、環境負荷の低減と経済価値の両立を目指しています。

当社は 1871 年創業の非鉄金属素材メーカーで、金属事業、高機能製品事業、加工事業、再生可能エネルギー事業を展開しています。中でも銅製品については、銅鉱石の調達から製錬、加工まで一貫して行っており、長年培ってきた製錬技術が競争力の源泉です。この技術は、E スクラップなどのリサイクル原料の高効率処理にも活用されており、循環型ビジネスモデルの基盤となっています。

欧州は、環境意識が高く、循環経済政策や重要原材料政策の面でも世界をリードしている地域です。そうした中、2024 年 9 月にオランダ・アムステルダムに欧州拠点を設立しました。E スクラップ、タングステン、リチウムイオン電池などの鉱物資源循環を欧州域内で展開していくことを目的としています。

オランダを選んだ理由としては、EU では WEEE 指令に基づく電気電子機器廃棄物の回収制度が成熟しており、良質な E スクラップが安定的に集まること、また港湾物流インフラが整っており、EU 域内から広く集荷するのに適していることがあります。現地法人 MM Metal Recycling B.V.は 2016 年に設立し、2018 年から本格操業しており、現在では当社のグローバルな E スクラップ取扱量の約 3 割を担う重要拠点となっています。

また、EU では WEEE 指令、循環型経済行動計画 (CEAP)、Critical Raw Materials Act (CRMA) などにより、循環経済と重要原材料確保に関する政策が体系的に整備されており、当社のような長期投資を行う企業にとって重要な環境が整っていると考えています。

一方で、E スクラップはバーゼル条約などに基づき厳格に管理されており、EU 域外への輸出規制は今後さらに強化される見込みです。規制対応は重要性を増していますが、E スクラップの発生量に対して処理能力はなお不足しており、日本のように適正なリサイクル能力を持つパートナー国との連携は不可欠だと考えています。

最後に、欧州における二次原料製錬プロジェクトについて申し上げます。当社は2035年までにEスクラップ処理量を倍増する方針を掲げており、その中核施策の一つとして、欧州で二次原料製錬所の新設を検討しています。Eスクラップおよび銅スクラップを原料に、銅や貴金属を回収する最新のリサイクル製錬技術を活用する計画で、EUの重要原材料政策とも高い親和性を持つと考えています。本日のご説明が、少しでも皆様のご参考になれば幸いです。